

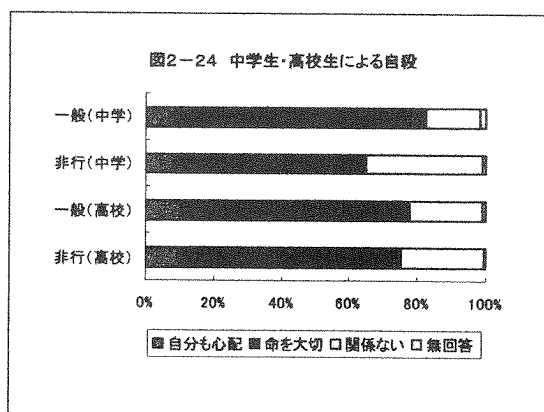
(6) 中学生・高校生による自殺

中学生・高校生が自殺したという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の3つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

- ア 自分も困った時にそうするのではないかと心配になる【自分も心配】
- イ もっと命を大切にすべきだと思う【命を大切】
- ウ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-24のとおりである。

どの群も事件に触発されて、自分も心配になると答えた者の割合は、どの群も約1割である。命を大切にすべきであると答えた者の割合は、どの群でも最も高かったが、一般群の中・高校生や非行群の高校生が約7割であったのに対し、非行の中学生は約57%と他に比べて低かった。



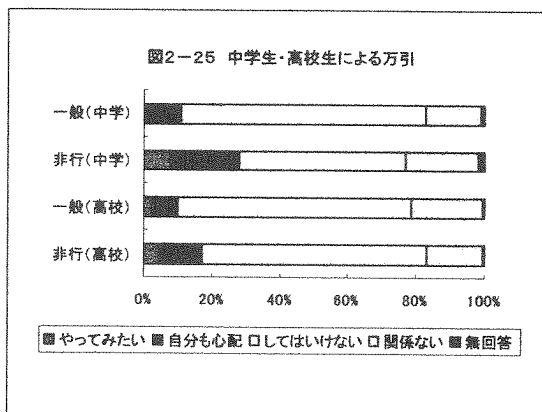
(7) 中学生・高校生による万引

中学生・高校生が万引をしたという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の4つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

- ア 自分もやってみたいと思う【やってみたい】
- イ 自分もしてしまうのではないかと心配だ【自分も心配】
- ウ してはいけないことだと思う【してはいけない】
- エ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-25のとおりである。

事件に触発されて、自分もやってみたいと思うと答えた者の割合は、最も高いのが非行群の中学生(8.0%)で、次いで、非行群の高校生(4.8%)、一般群の高校生(2.5%)、一般群の中学生(1.4%)の順になっている。また、自分もしてしまうのではないかと心配と答えた者の割合も、最も高いのが非行群の中学生で20.2%、次いで、非行群の高校生(12.5%)、一般群の中学生(9.5%)、高校生(7.7%)の順に



なっており、非行群の方が一般群より万引事件の報道に対して同調する傾向があることを示している。

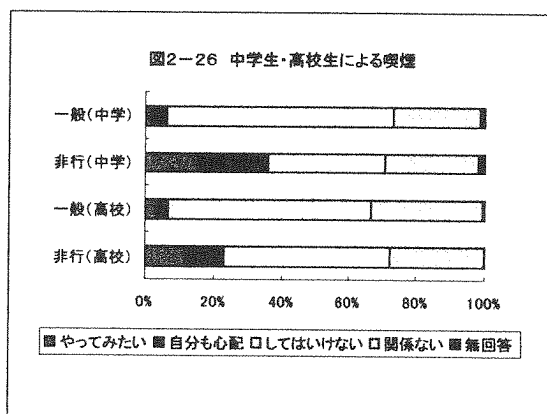
(8) 中学生・高校生による喫煙

中学生・高校生が列車の中でタバコを吸うという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の4つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

- ア 自分もやってみたいと思う【やってみたい】
- イ 自分もしてしまうのではないかと心配だ【自分も心配】
- ウ してはいけないことだと思う【してはいけない】
- エ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-26のとおりである。

事件に触発されて、自分もやってみたいと思うと答えた者の割合は、最も高いのが非行群の中学生（15.6%）で、次いで、非行群の高校生（11.8%）、一般群の高校生（3.2%）、一般群の中学生（1.7%）の順になっている。また、自分もしてしまうのではないかと心配と答えた者の割合も、最も高いのが非行群の中学生で20.2%、次いで、非行群の高校生（11.2%）、一般群の中学生（4.5%）高校生（3.6%）の順になっており、非行群の方が一般群より少年による喫煙の報道に対して同調する傾向があることを示している。



(9) 中学生・高校生による親への暴力

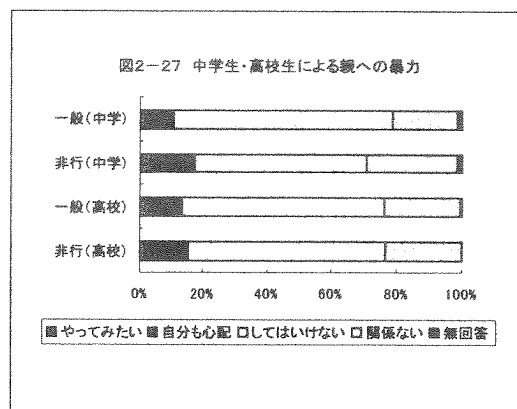
中学生・高校生が親を殴るという事件の報道を見聞したと仮定した場合、以下の4つの感想の中から1つを選択するよう求めた。

- ア 自分もやってみたいと思う【やってみたい】
- イ 自分もしてしまうのではないかと心配だ【自分も心配】
- ウ してはいけないことだと思う【してはいけない】
- エ 自分とは関係ないことだと思う【関係ない】

結果は、図2-27のとおりである。

事件に触発されて、自分もやってみたいと思うと答えた者の割合は、最も高いのが非行群の中学生（4.3%）で、次いで、一般群の高校生（3.2%）、一般群

の中学生（2.8%）、非行群の高校生（2.2%）の順になっており、非行群の高校生（2.2%）の割合が一番低い。また、自分もしてしまうのではないかと心配と答えた者の割合は、最も高いのが非行群の高校生で13.4%、次いで、非行群の中学生（13.1%）、一般群の高校生（10.1%）中学生（8.0%）の順になっている。同調性を示している項目「自分もやってみたいと思う」と「自分もしてしまうのではないかと心配」



の2つの項目に対する回答の割合を合計して一般群と非行群を比較すると、非行群の方が一般群より若干ではあるが同調する傾向があることを示している。

以上、9の事件がテレビのニュースや新聞で報道されたのを見聞したと仮定したとき、どんな同調の仕方をするのかを調べた。

全体的にみると、「少年がナイフで人を刺した」事件や「中・高校生による覚せい剤使用」事件などの重犯罪の報道に対しては同調的な感想を抱く少年は少ないが、「生徒間暴力」「対教師暴力」「暴走族による深夜暴走」「万引」「喫煙」「親への暴力」などの事件報道に対しては、重犯罪事件の報道に比べて同調的な感想抱く少年の割合が多くなる。また、「少年の自殺」事件に対しては、少年の約1割が「自分も困った時にはそうするのではないかと心配になる」と答えている。

また、一般群と非行群とを比較すると、少年による事件報道を見聞したとき、非行群の方が同調的な感想を抱く傾向がある。特に、非行群の中学生にその傾向が強く、同じ中学生である一般群の中学生と比較すると顕著である。

6 まとめ

この節では、調査対象少年の社会的逸脱行動に対する許容性や実行予測、合理化の程度、悪質意識、あるいは、メディア情報を得た時の反応などの調査結果を分析することにより、最近の少年の規範意識の実態を検討した。各調査結果を要約すると次のようになる。

- (1) 社会的逸脱行動に対する許容性を一般群と非行群の少年とで比較すると、不良行為に対して顕著に非行群の少年の方が許容的であった。
- (2) 社会的逸脱行動に対しての実行予測を一般群と非行群の少年とで比較すると、

一般群の少年の方が「絶対しない自信がある」と答えている割合が高く、「一人でもしてしまうかもしれない」さらに「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と答える少年の割合は、一般群より非行群の少年の方が高い。

- (3) 社会的逸脱行動をしてしまった場合、その行動をしてしまった少年の合理化（言い分け）を容認するか否かを一般群と非行群の少年とで比較すると、本調査で取り上げた6つの逸脱行動に対するすべての合理化に対して、非行群の少年の方が一般群の少年より容認している割合が高い。
- (4) 本調査で取り上げた社会的逸脱行動に対して、どのくらいの悪質意識をもっているかを一般群と非行群で比較すると、一般群の方がすべての逸脱行動において高い悪質意識を持っている。
- (5) 少年事件がテレビや新聞などで報道されたのを見聞したとき、同調の程度を一般群と非行群で比較すると、非行群の少年の方が同調しやすい。特にその傾向は、非行群の中学生に顕著にみられる。

以上の結果から、社会的逸脱行動に対する許容性や実行予測・合理化の程度・悪質意識、メディア情報を見聞したときの同調の程度、を規範意識の指標として考えたとき、一般群の中・高校生と非行群の中・高校生を比較すると、一般群の中・高校生の方が規範意識が高く、非行群の中・高校生は規範意識が低いといえる。

しかし、非行群の方が規範意識が低いという点については、元々規範意識が低いから非行に走ったのか、非行に走ったから規範意識が低くなったのか、その判別がつきにくく、今後の研究すべき課題であるといえよう。